

作品コンクール

入賞作品集



主催 埼玉県、埼玉県下水道協会、公益財団法人埼玉県下水道公社

後援 埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会



下水道は、風呂やトイレ等で使った水をきれいにして川に戻します。下水道の整備により、トイレが水洗化され、ハエ、蚊などの害虫発生が少なくなり、人々が清潔で快適な生活を送ることができます。また、市街地に降った雨水を速やかに排除し浸水を防いでいます。このように、下水道は重要な都市基盤施設です。

「下水道の日」は、1961年(昭和36年)に下水道の普及およびアピールを図るために「全国下水道促進デー」として定められたものが始まりです。

当時は下水道の普及が著しく遅れており、また経済が高度成長した反面、生活環境や公共用水域の悪化が著しくなっており、下水道の整備・促進に対する要望が高まっていました。

それから40年が経過し、2001年(平成13年)が21世紀のスタートの年でもあることから、より親しみのある「下水道の日」に名称が変更されました。

9月10日と定められたのは、下水道の大きな役割の一つである「雨水の排除」を念頭に、台風シーズンである210日を過ぎた220日(立春から数えて)が最適であるとされたためです。

毎年、9月10日を中心とした前後1週間に、下水道に対する理解や関心を深めていただくため、下水道事業者である地方公共団体などが様々な催しを全国で開催しています。

埼玉県においては、埼玉県、埼玉県下水道協会および公益財団法人埼玉県下水道公社の三者が共催し、「下水道の日」の記念事業として、「作品コンクール」や水循環センターを見学する「下水道の日の集い」を実施しております。

「下水道の日」 作品コンクール 入賞作品集

* 標語部門 2ページ

* ポスター部門

小学校低学年の部 3ページ
小学校高学年の部 4ページ
中学生の部 5ページ

* 書道部門

小学校低学年の部 6ページ
小学校高学年の部 7ページ
中学生の部 8ページ

* 作文部門

小学校高学年の部 9ページ
中学生の部 12ページ



埼玉県知事賞

下水道

くらしの下に

いのちのわ

加須市立加須小学校 四年

石井 瑞希



埼玉県下水道協会会長賞

下水処理

キレイな水への

バトンパス

朝霞市立朝霞第九小学校 四年

藤井 心之介



入選

下水道

きれいな町の ひみつきち

蓮田市立平野小学校 三年

下山 花暢



入選

下水道

町と地球の 血管だ

熊谷市立玉井小学校 五年

黒澤 祐貴



入選

安全な

くらしささえる 下水道

熊谷市立玉井小学校 四年

茂木 翔

入選



所沢市立富岡小学校 2年
小奈 柚月

入選



ふじみ野市立元福小学校 2年
林 俊睿

入選



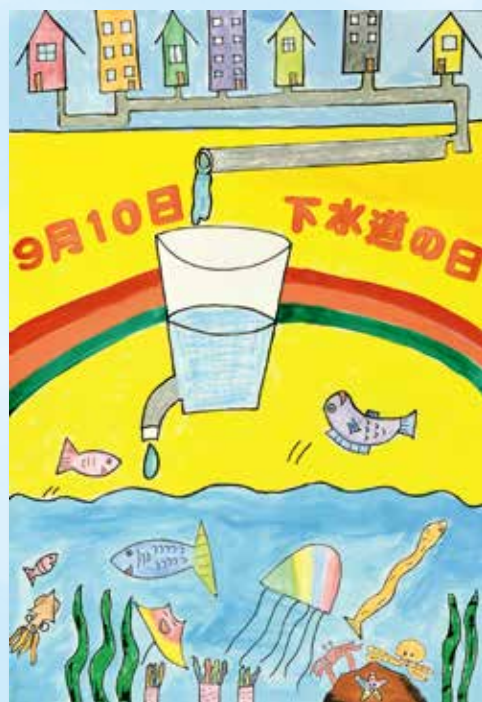
吉川市立美南小学校 1年
中澤 美萌

埼玉県知事賞



所沢市立若狭小学校 1年
高橋 香蓮

埼玉県下水道協会賞



吉川市立美南小学校 3年
久米 悠月

埼玉県知事賞



川口市立青木中央小学校 4年
高橋 咲菜

入選



杉戸町立高野台小学校 5年
細田 理尊

入選



加須市立加須小学校 5年
竹内 美優

入選



所沢市立伸栄小学校 6年
田島 明祐輝

埼玉県下水道協会賞



行田市立西小学校 5年
尾形 美結



埼玉県下水道協会会長賞



加須市立大利根中学校 1年
堀江 美生



埼玉県知事賞



飯能市立原市場中学校 3年
武藤 そらの



入選



さいたま市立大宮東中学校 1年
田辺 恭輔



入選



白岡市立篠津中学校 3年
井口 叶夢



入選



熊谷市立三尻中学校 2年
水谷 茉菜

埼玉県下水道協会会長賞

埼玉県知事賞



行田市立北小学校 2年
大木 優太



熊谷市立石原小学校 3年
山口 駿



東松山市立新明小学校 3年
間部 祐佳



志木市立志木第二小学校 1年
西本 明道



川島町立つばさ北小学校 1年
西村 祥汰



鶴ヶ島市立鶴ヶ島第一小学校 3年
清水 陽音



さいたま市立指扇小学校 2年
小久井 瑠花



吉見町立東第二小学校 4年
鯨井 琴羽



川島町立つばさ南小学校 6年
小嶋 葵



吉見町立西が丘小学校 6年
加藤 愛桜



春日部市立桜川小学校 5年
井上 愛実



川島町立つばさ北小学校 5年
松崎 俊介



川島町立つばさ北小学校 4年
中島 里紗



加須市立加須南小学校 6年
安藤 凜

埼玉県下水道協会会長賞

埼玉県知事賞



川島町立川島中学校 2年
川畑 早礼



熊谷市立大原中学校 3年
山口 彩

入選

入選



川島町立西中学校 2年
山中 愛



吉見町立吉見中学校 1年
鯨井 穂香

入選

入選

入選



鴻巣市立鴻巣西中学校 2年
立川 栞菜



熊谷市立熊谷東中学校 1年
國分 瑠那



吉見町立吉見中学校 3年
茂木 千夏



埼玉県知事賞

おばあちゃんの未来

熊谷市立玉井小学校 五年

高橋 律樹

「水道がなく、家の外にある井戸から直接水をバケツにくみ取る。」

それを、十メートル以上運び、家の中にある『水カメ』に入れかえる。

ヒシヤクですくい上げて、飲み水や炊事洗たくなどに使っていた。

お風呂に入る時は、井戸から風呂おけまで重いバケツを、何度も何度も、運ばなくてはならないので大変だった。

水運びは、子ども達のお手伝いと言うよりも、当時の『子どもの大切な仕事』だった。「

「こんなじょうたいだから、下水しよりの考えは、全く無い。」

炊事洗たくなど使用済みのお水は、そのまま近くの川にタレ流し。

川には、アワがうき、ニオイがひどく臭かった。『魚もすめない死んだ川』が多かった。」

ぼくは、おばあちゃんから六十年前の、この話を聞きたいへんおどろいた。

今のきれいな川があるのは、『下水しよりの

おかげ』と聞いて、またおどろいた。

そして『水のじゅんかん』の話を聞いた。

「海、川などで温められた空気が上に行き雲になる。」

雲は上空で冷やされ雪、雨になって山にふる。

山にふった、雪や雨が土の中に流れ、何十年もかかって泉となつて、わき出て来る。

それは、田畑をうるおし、飲み水として人々のどのかわきをいやし、工業用水として、人々の生活をもつるおす。

水は川に流れ、やがて海へと続き、また雨となる。

『水は大切だ。』

よこれたままだと、海もよごれる。

使った水を人間はキレイにして海にもどすど力をしている。」

おばあちゃんの時代とちがひ、今のぼく達の生活は、水道がかんびされている。

じゃ口をひねると水が出て直せつ飲む事ができる。キレイな水だ。

お風呂に入る時は、温かいお湯が出る。洗たくの水も同じだ。

使った後の水は、下水道管を通り、何事も無かったように、ぼく達の前から消えていく。

しかし、かげでは大変な作業を行ないながら、日々ど力して水をきれいにしてくれる人達がいる事をぼくはわすれない。

ぼくは水をよごさない。

ぼくは、おばあちゃんの時代にはもどろかない。



埼玉県下水道協会会長賞

目からうろこが落ちて

羽生市立三田ヶ谷小学校 五年

岩崎 朱里

「ぼくたちがトイレに流したウンチやおしっこってどこにいつてしまうのだろう？」

不思議に思うことはあったが、それ以上真剣に考えたり、調べたりしたことはなかった。

「下水道の日」作文の募集を知って、初めて学習し始めたところ、「目からうろこが落ちる」

ようだった。下水という汚い水としか考えられなかったが、リサイクルされて、また私たちの飲料水になっていたとは、本当にびっくりした。「本当に、きれいな水になるんだ」と

思った。さっき飲んだ水が、もしかしたら数週間前には、だれかの「おしっこ」だったのかも

しれないわけだもの……。

ぼくの家は、四大家族である。毎日、千リットルもの水を使っていることになるらしい。

それは、リットルのペットボトル五百本分と考えると、ものすごい量だ。しかし、考えてみると、お料理やお風呂、洗濯、水洗トイレなど、確かにたくさん水を使っている。そして

使われた水は汚水として、流されている。

人間が増え、汚水も限りなく増えている現

在では、そのまま流すと汚れに強いプランクトンや細菌ばかりが増え続け、海や川では、水中の酸素がなくなってしまう環境汚染が進んでしまうという。かつて人間が少なかったころは、プランクトンや細菌の力で、十分にきれいな環境が保たれていたらしい。今、下水道のシステムが進化し、海や川の環境が守られているという仕組みがよくわかった。

でも、最も大切な事は、下水道にたよるだけでなく、みんなが水という貴重な資源を無駄にしないようにする事が必要なのだと感じた。

ぼくの住んでいる所は、田舎のせいかわ、下水道の設備ができていない。どうやって汚水が流されているのかが気になって調べてみた。雨水や生活に使われた、いろいろな水は、汚水となり、浄化そうという地下の大きなタンクに集められる。タンクの中では、特殊なバクテリアの力を借りて、汚れを分解し、きれいな上ずみだけを川に流している。沈殿した物は、バキュームカーで吸い取られる。そして「し尿センター」へ運ばれ、肥料などが作られている。インターネットで、下水道の普及率を調べてみると、普及率百パーセントの市もあって「すごい」と思った。下水道を作るのに、ものすごくたくさんの方が必要なのもわかった。しかし、いくら浄化そうの上ずみがきれいだと言っても、飲料水になるほど浄化されるわけではないだろうと思うと、ぼくの住んで

いる地いきも、「早く、下水道が完備できるといいなあ」と思った。海や川の生き物たちのためにも。



入選

下水道の役割

ふじみ野市立福岡小学校 五年

植村 凜乃

いつもは、目にする事のない下水道。でも下水道は、見えないところで私たちの安全安心、かいてきな生活を支えています。下水道の役割は、主に四つあります。

第一は、街を清潔にすることです。私たちが家庭で使ったよごれた水は家の下にあるパイプを通って下水道管に流れていき、下水処理場に運ばれていきます。下水道が整備されることで、お水が直接街に流れなくなるため街が清潔に保たれ害虫や悪臭を防ぐことができます。

第二は、街をしん水から守ることです。ここ数年「ゲリラ豪雨」の発生が増えて短時間に大量の雨がふることが多くなってきています。街に雨水がたまり水びだしにならないように下水道は、はい水してくれます。

第三は、身近なかんきょうを守ることです。

街や工場から下水道を流れてきたお水は、下水処理場に運ばれます。そこでさまざまなしよ理を行ってきれいになった水は、消どくして川や海に流しごします。

第四は、エネルギー・しげんをつくることです。下水しよ理場では、お水をきれいにしよ理するだけでなくきれいな水が再生水として利用したり、下水しよ理のかいで発生したバイオガスを燃料やガスとして利用します。また、下水おでいからリンを回しゅうしてひ料を作ったりなどエネルギーしげんをつくり出しています。

私のお母さんが小さいころは家に下水道が無くて、家から出るお水は、土の中にうまったじょう化そうという大きなタンクの中にためていたそうです。そして、定期的に、そのお水を回しゅうにきてもらっていたそうです。下水道が整備されてからは、直接お水を流すことができます、とても清潔になったそうです。そう考えると、下水道はとても大切なものだと思います。

現在の私の家も下水道が整備されていて雨水が流れなかったり、トイレの下水が流れなかったりという事はなく毎日かいてきに生活できています。下水が下水道を流れていることを直接見たことはありませんが、庭のフタのあるところを流れているとお母さんから聞いたので今後は、

「ああ、ここに下水が流れているんだなあ。」と意識して感しゃして生活していきたいと思えます。

また大雨の時、私の家の前の道路は雨水がたまってしまふことがあります。しかし、時間がたつとその雨水は、下水に流れていきます。もしこの雨水が下水に流れなかつたら、道路は、水びたしそのまま自動車も人間も通ることができなくなつてしまいます。下水道のおかげで、この様なきけんも防ぐことができます。

私たちの毎日の生活の中で、下水道は大活やくして、無くてはならない存在なのです。



入選

大切な下水道

熊谷市立玉井小学校 六年

鍛冶 愛咲美

私は、下水道という言葉聞いて一番に思いつくのは「汚い」というイメージです。お風呂で体を洗つた水や汚れたお皿を洗つた後の水が流れている所つて考えてしまふと汚いという感想しか出てきませんでした。

下水道の日の作品コンクールに参加する事になつた私は何も考えが浮かばなくて困つて

しまい、お母さんに相談しました。

「下水道つて汚れた水が流れているだけですよ。」

と聞いたらお母さんは、

「汚れた水をキレイな水に変えるために下水道があるんだよ。汚れた水をただ流しているだけじゃないんだよ。」と言われて驚きました。

「汚れた水をただ流してたら地球全部がドロになつちゃうでしょ。そうならないために下水道で汚れた水をまとめてキレイにしているんだよ。」

そう言われて下水道は汚いとは思つていなかった自分が恥ずかしくなりました。

お母さんの話を聞いてから私は下水道への考え方が変わりました。もし水道から石けんが混ざつた水が出たりしたら、その水を飲むことはできなくなつてしまいます。手や顔を洗つた時にはキレイに洗い流すことができないとヌルヌルしたまま友達と手をつないだりしなきゃいけない。下水道がなくなつたらそんな世界になつてしまふかもしれない。そう考えたらとても怖くなり下水道がどんなに大切なものなのか、私達の生活にとつてなくてはならないものなんだと強く思いました。

下水道の事が気になつて調べてみたらおもしろいことが分かりました。石や砂などの大きなゴミはゆっくり流す事で下にしずんで

まいます。ですが目に見えない小さなゴミや汚れをキレイにしてくれているのは「微生物」だったのです。ポルティセラ(つりがね虫)、マクロビオッス(くまむし)、アルケラ、アエオロソマという微生物達が汚れた水に含まれる小さなゴミを食べて汚水をキレイにしてくれています。私は水をキレイにする方法はろ過装置のようなものでキレイにしていると思つていましたが、今回調べてみて微生物がキレイにしてくれていると分かり、とても驚きました。下水道と微生物は私達の見えないところでずっと大切な役割をしてくれているんだと思ひ、私は今までの考えを深く反省しました。

私達は生きていく中でたくさん水を使つて汚してしまいます。でも汚れた水をそのまま川や海に流したらどんな世界になるか、どんな未来になるかは簡単に想像できません。私はそんな未来で生活したくないし、汚れた水を未来に残したくないので、キレイな水を未来まで残すためには下水道の力に頼らないといけないと思ひます。だから私達はもっと下水道を大切に思ひ、汚れた水知らんぷりしてはいけないんだと思ひます。

下水道は私達の生活、未来を地下で支える「縁の下の力持ち」ということを忘れないように「ありがと」と感謝の気持ちをもつて生活していこうと思ひます。



埼玉県知事賞

僕達の生活を支えている

下水道

朝霞市立朝霞第二中学校 一年

大久保 悦志

僕は以前から少し気になっていたことがあった。それはトイレやお風呂などで使った水はどこに運ばれていくのかということだ。毎日お風呂やトイレで大量に使われて流されている水は下水道に流れていくと思うのだけれども最後はどこに行くのだろうか。そのことが気になったためインターネットで調べてみた。すると、僕の住んでいる朝霞市の近くの和光市に「新河岸川水循環センター」という下水の処理をしている施設があることが分かった。朝霞市から出た下水もここで処理しているようだった。僕はこの施設がどのようなことをしているのか実際に見てみたいと思った。そこで親から見学をお願いしてもらい、自分の目

で下水をきれいにするとところを見る機会を頂いた。

見学をしてまず驚いたのは、施設の巨大さだった。新河岸川水循環センターの面積は約三十五ヘクタールとのことだった。この数字だけからだどのくらいの広さかは分からないけれどもセンターの建物の中から見えたセンター全体は、本当に広かった。下水の処理をしている設備の奥には運動場があり、遠くの方には焼却施設が見えた。僕はこんなにも大きい施設で下水を処理しているんだと実感した。施設の巨大さの他にも、このセンターに流れてくる下水が出されている場所の広さにも驚いた。地図で見るとこの施設に流れてくる下水の中で一番遠くから流れてくる場所は吉見町だった。僕が住んでいる朝霞市から見ても吉見町は川越市よりも遠い場所にある。こんなにも遠い場所から下水がこのセンターまでやってくるのだ。また、このセンターでは吉見町、朝霞市など約百六十万人の人達が使った水をきれいにしていることにも驚いた。僕も含めてこの人達は一人あたり一日に二百四十

リットルも使うとのことだった。そう考えるとこのセンターで毎日、とんでもない量の下水をきれいにしていることになる。とても大変なことだと思った。

見学の中では下水をきれいにする仕組みも聞くことができた。その中で僕が興味を持ったのは、「活性汚泥」という微生物を使って下水をきれいにする方法だ。僕はつきり消毒などの化学物質を使ってきれいにしているのかと思っていた。生物を使ってきれいにしているとは全く考えたことがなかった。そしてこの大量の下水すべてを微生物がきれいにできるのかなとも思った。きちんとした条件が合わないと減ってしまったら、増えすぎてしまったりして、下水の浄化がうまくできなくなる。そのため、良い状態を保たなければならぬとのことだった。センターの方達は微生物がいつも元気に働ける環境を保つように気を使っていった。顕微鏡を使わないと見えないうち

い微生物を、大切にしていると感じた。

下水を浄化する活性汚泥は、微生物の塊で生きているので、下水を処理しているうち

に増えてしまう。そこで、増えすぎた活性汚泥は、汚泥処理施設で燃やされてセメントなどに使われている、とのことだった。僕は、活性汚泥が下水をきれいにするために使われるだけでなく、セメントなどの有用なものにも使われると聞いて感心した。また、この新河岸川水循環センターでは活性汚泥を炭にすることも行っているとのことだった。活性汚泥の微生物は炭にも変化するのだ。水をきれいにする他に、役に立つものに変化する微生物はすごいなと思った。

下水道についての説明を聞いて下水道処理場の大切さが理解できた。もし下水道処理場が止まってしまうと、たくさんの人達が排水できなくなり、生活ができなくなってしまふ。また、百六十万人の人達が出した排水は下水道に流れ、このセンターにやってくる。だから下水道処理場は二十四時間三百六十五日施設全体を止めることができないのだ。僕はそれを聞いてどんな時も絶対に止められない重大な施設なんだと実感した。

僕はこの施設を見学するまで下水道や下水処理場のことはほとんど知らなかった。

しかし、今回センターの見学をさせて頂いてから以前よりも下水に興味を持つようになった。すべての下水の中で生活排水が七十六パーセントになるそうだ。僕達が使った水が工場で流されている水よりもずっと多いのだ。水を使っている一人一人が水を汚しすぎないようにすることが大切だと思う。僕もこれから排水を減らす努力をしようと思う。



埼玉県下水道協会会長賞

使う水と捨てる水

ふじみ野市立花の木中学校 一年

森 弥琴

「こんにちは。水道の検針の者です。やっと奥様にお会いできて良かったです。」

私と母が買い物から帰ると、制服を着たおばさんが話しかけてきた。

「お世話様です。何かありましたか。」
と母が聞き返す。

「実は、半年位前から、急に水道代が倍近くになっているので、水がもれていないか水圧を計っていたところなんです。水圧に問題はないので、どこかからもれている訳ではないのになんで急に上がってしまったのでしょうかねえ。」
とおばさんは不思議そうに首をかしげた。
「心配して下さりありがとうございます。孫が産まれて、しばらくうちで生活しているものですから。」
と母が答えると

「そつですか。赤ちゃんがいると水道代かかりますもんね。なら良かった。おめでとつございます。」

とおばさんは帰っていった。

家に入るとすぐ、母は通帳を持って銀行へまた出かけた。家に帰ってくると姉を呼び、「忙しくて通帳記入しなかったから気づかなかつたけど、水道代が上がつてた。」と嬉しそうに見せていた。

昨年六月に姉が男の子を出産し、今年の三月まで一緒に生活していた。

赤ちゃんが居ると何故水道代が上がるのだろう。水を使うと言えば、お風呂、洗濯、ミルクのお湯くらいしか私は思いつかなかつた。そこで母に、何故そんなに水道代がかかつてしまうのか聞いてみた。すると母はさつきおばさんから受けとつた検針票を見せてくれた。検針票には上水道、下水道とそれぞれ金額が書いてあつた。

「たぶん弥琴は、水道を使うことしか考えてないでしょ。よく考えて。水を出せば流すよね。流した水は勝手にきれいになると思つて。」私はまさに目からウロコ。何も言葉が出なかつた。もちろん、下水道と言つ言葉も設備も

知っている。ただ日常生活では水道と言つ。正直水道は、蛇口から出る水のイメージしなかつた。

私は下水道について調べようと、姉からスマホを借りた。

「何調べなの？」

と聞かれたので

「下水道。」

と答えると

「下水道、コンタクトって検索してみ。」と言われた。

記事には、「アメリカでは、使用者の15〜20%が使用後のコンタクトレンズを流しやトイレに捨てている」「排水口やトイレに流れたコンタクトレンズは、下水処理場で粉々になるが、化学的に分解されるわけではない。レンズが粉々になってできたプラスチック粒子は海に流入する。海に流入したマイクロプラスチックは、小型の魚やプランクトンが餌と間違えて摂取する可能性があり、食物連鎖によつて人が口にする動物にまで達すると書いてあつた。記事を読み終わる前に、私は胃の辺りがムズムズして仕方がなかつた。理由は、中学に入学したタイミングで、コンタクトを使用し始

めた。しかも、たまにお風呂場で外し、そのままにし、よく母にゴミ箱へ捨てるよう注意されるからだ。私が知らずにやつていたことが環境破壊につながっているなんて、知らないということがこんなに恐ろしいと思つたのは初めてだ。自然を大切に。環境汚染を食い止めようとよく耳にするが、正直、何をすれば良いのか全く分からなかつた。でも、自分が出すゴミがどう処理されるのかもつとよく知ることが、環境保護への一歩になるのではないかと思つた。そして、蛇口から飲める水が出て、トイレのにおいすら気にならない下水処理が施された日本に生まれ育ちとても恵まれていると思つた。汚水が処理されなければ病気も広がる。そのせいで、一歳を迎えることなく死んでしまう赤ちゃんが世界中にはまだ沢山いる事を知つた。新生児のために毎日お風呂の水を替える。赤ちゃんの洗濯物は別で洗つ。水道代が高くなつたとしても、清潔で安全な水をお金で買うことができる。それを当たり前に思つてはいけない。水がないと人は生きていけない。今まで意識していなかつたが、使つ水、捨てる水共にもつと大切にしようと思つた。



入選

みんなのための下水道

さいたま市立大谷場中学校 三年

藤井 凜

ある日、テレビのニュースがこう言っているのをきいた。

「東京オリンピック、パラリンピックのトライアスロン会場の海水から、基準値を大幅に上回る大腸菌が検出されたということです。」

原因は、処理が追いつかなかった生活排水が海に流れこんでしまったことらしい。なぜそんなことになってしまったのか不思議に思っただけで、そのままだと、「都内の下水道の多くが雨水と生活排水を合流させて浄化処理を行っているので、降雨で水の量が増えると処理しきれなかった汚水が海へ流れてしまう」とのことだった。

私は何だか納得がいかなかった。雨が降るたび、海や川が汚れてしまうのはよいことではないからだ。でも、母はこう言っていた。

「下水道って、雨水から街を守ってくれてるからね。難しいね。」

私は驚いた。下水道が街を守っているなんて、知らなかった。一体どういうことだろう。

そこで、普段見ることのできない下水道の役割を調べてみると、汚水の処理だけでなく雨水の処理を行っていて、街が水浸しになるのを防いでいることがわかった。降った雨をすみやかに排除して、浸水から私たちを守ってくれていたのだ。私は少し恥ずかしくなった。今まで、下水道にたくさん支えられてきたのに、何とも思わず生きてきた自分がいい身分だったと思った。もし下水道がなければ、トイレも使えず、街は汚くなってしまおうし、雨が降ったら水浸しなのだ。そして、それだけではなく、肥料を作ったり燃料になったり、エネルギーを作り出しているのも下水道で、私たちの生活をいろいろな場面で便利なものにしてくれていた。

ただ、やっぱり海に大腸菌が流れこむのはいいこととはいえない。気持ちのいい衛生的な環境でオリンピック競技を行うのが

一番だ。水質汚染というと、私の住む地域の川も以前は水質が悪く、再生に取り組んだときいたことがある。多摩川も、昔は「死の川」と呼ばれるほど汚染されていたという。汚れた水が海や川に流れると、生き物は住めなくなってしまう。処理できていない生活排水を海に流してしまうのは、人間だけではなく、他の生き物にとってよくないことだ。とはいえ、下水道が雨水を排除してくれないと水害が起こる危険もある。どうすればいいのだろうか。

私はさらに下水道について調べた。そして、雨水や生活排水などを一時的にためた後浄化処理のできる貯留施設の容量を増やす取り組みが進められていること、汚水管と雨水管が別々になって流れている「分流式」の下水道があることを知った。汚水をきちんと処理して流すことができれば、街の衛生を保てるうえ、雨水と別々ならば水害も海や川の汚染も防げる。何て素晴らしい、日本の下水道は全てこれにしてしまえばいいのにと私は安直に考えた。しかし、建設費が高かったり、課題を抱えているそつだ。

縁の下の力持ちである下水道は、想像以上に生活を支えてくれている偉大な存在で、とても奥が深い。下水道の整備された環境で暮らせることに感謝しながら生活していきたい。また、下水道が人間と、環境全体にとってよいものであってほしいと思う。



入選

コップ一杯の水が与える 大きな影響力

熊谷市立富士見中学校 三年

加藤 凱也

みなさんに質問します。

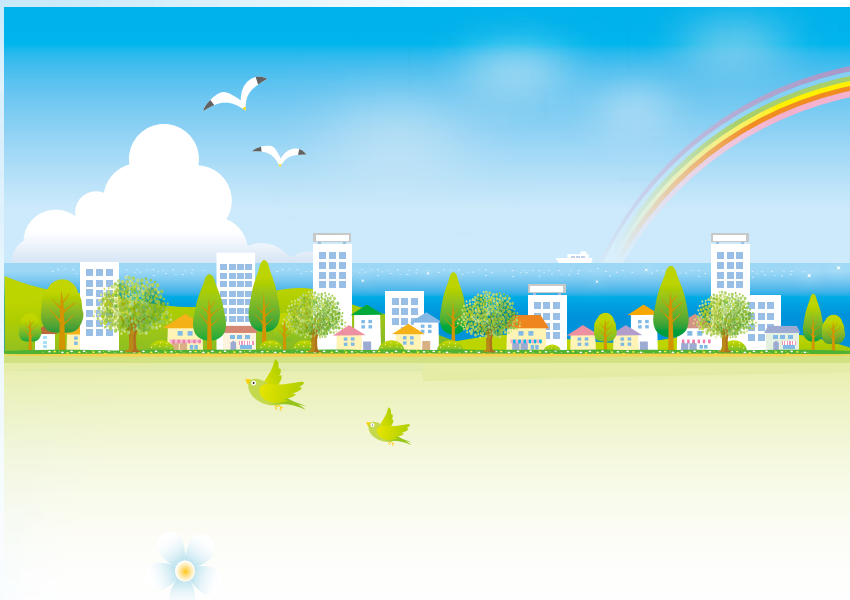
「いま仮に、コップ一杯の水の分子にすべて目印をつけることができたとします。次にコップの中の水を海に注ぎ、海を十分にかきまわして、この目印がついた分子が七つの海にくまなく一様にゆきわたるようにしたとします。もし、そこで海の中のお好みの場所から水をコップ一杯汲んだとすると、その中には目印をつけた分子が約〇〇個みつかるはずですよ。」これは、物理学者のエルヴィン・シュレーディンガーの著書「生命とは何か」の中で原子の大きさについて述べているとても有名な記述です。さて、この〇〇に入る数字はいくつでしょうか。

僕は、限りなく〇個に近い一個だろうと考えました。しかし、答えは百個でした。も

ちろん、ぴったり百個ということではありませんが、五十個のように少なかったり、百五十個のように多かったりすることはないので、僕は、目に見えないほどの分子とはいえ、想像をはるかに超えるこの数字にとっても驚きました。もし、無責任に僕たちが汚れた水を海や川へ流してしまえば、海や川はたちまち汚染されてしまいます。

しかし、僕は今まで、海や川へ行った時に汚れていて困った経験はありません。考えてみると、僕たちは毎日たくさんの水を使っています。使ったあとの水、汚れた水や雨水などは、どのようにしているのか、調べてみました。

日本では、家庭や工場から出た汚水や雨水などは、下水管へ流れていきます。そして、各地に設置されたポンプ場から、下水処理場へと運ばれていきます。そこでは、まず大きなゴミや土砂を取り除き、次に微生物を使って汚れを取ります。その次に、海や川の環境に応じて、生態系に影響を与えないような安全な化学的処理や消毒を行い、きれいになった下水処理水として、海や川へ



戻されていきます。僕は、このような丁寧な処理を行い、汚水や雨水が自然へ戻されていることを知り、日本の下水処理の技術力の高さは世界に誇れると思いました。

海外のニュースで、川や海が汚染水によって、ピンクや緑の毒々しい色に染まっているのを見たことがあります。悪臭もさることながら、とても不衛生な環境で、人々の健康にも影響を及ぼしているようでした。水は、生きていく上で最も大切なものです。しかし、使ったあとの水の処理をおこたれば、不衛生な環境となり、人の生命まで奪ってしまうこともあります。下水をきちんと処理することは、人々が安心、安全で健康的な生活をしていくうえでとても大切なことです。

下水道の設備や下水処理の設備が整っている日本での生活は、とても衛生的で、安心、安全なため、快適といえます。しかし、汚水処理には、多くの時間や人の力を費やします。コップ一杯の汚水が、日本だけでなく世界中に広がってしまうのですから、自分たちの使った水に責任を持たなくてはいい

ません。

まずは、節水を心がけます。それから、食器を洗う時、汚れた衣類を洗う時は、少しでも汚れた水を流すことを減らす努力をします。僕にできることは、とても小さなことです。しかし、みんなが心がければ、それは大きな力となります。たった一杯のコップの水が、世界の海に与える影響の大きさを常に意識し、生活していきたいと思えます。



●●●●●●●●●● 応募状況 ●●●●●●●●●●

〔 標語部門…部門応募数 930点 〕

〔 ポスター部門…部門応募数 1,001点 〕

小学校低学年の部 415点 高学年の部 465点 中学校 121点

〔 書道部門…部門応募数 22,633点 〕

小学校低学年の部 8,629点 高学年の部 13,302点 中学校 702点

〔 作文部門…部門応募数 54点 〕

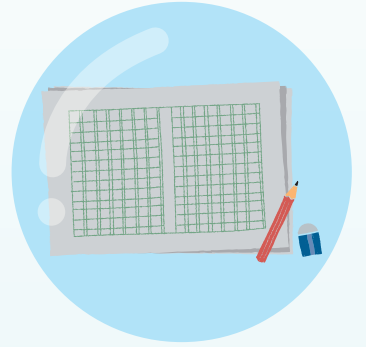
小学校 29点 中学校 25点

応募総数 24,618点

クマムシくんとなかまたちは、「埼玉の下水道マスコット」です。
 下水処理場で、汚れた水をきれいにする
 微生物をキャラクター化しました。



埼玉の下水道マスコット



埼玉県のマスコット
 さいたまっち



下水道
 くらしの
 いのちの
 下の
 わ



埼玉県のマスコット コバトン

presented by 彩の国 埼玉県

公益財団法人埼玉下水道公社
 Saitama Sewerage Systems Agency

PRINTED WITH
 SOY INK

環境にやさしい大豆インキを使用しています。
 再生紙を使用しています。